



# 九遊商からの お知らせ

No.21



座談会に出席した方から＝丸田安村、山田規雄、有田義雄、金子嗣生、石山敬達の歴代理事長

## 歴代5理事長の記念座談会

### 「九遊商五十年史」より再録その2

前号から引き続き「九遊商五十年史」から歴代理事長五氏の記念座談会を再録。今回は法人化への意識の盛り上がり、違法精神、理事長の健命、次世代について、何原が先行して協同組合を作っていました。我々もやろうということになったけれど、このことに対する知識を持ち合わせいなかったから、関係各方面に問い合わせながらの作業でした。当時は中古流通が増加していましたが、一部の業者による現金が横行し、無秩序な状況が発生してきていました。そこで組織強化を図り、共同事業を推進、業界の秩序ある発展を目指して協同組合を設立しようということになったわけです。

#### 昭和六十三年に組合法人化、業界人としての力強い意図の盛り上がり

昭和六十三年に九州遊技局の認可を受け協同組合として法人化されましたが、このあたりのいきさつを教えてください。

金子 これはですね、全国的に協同組合を作ろうじゃないかという動きが出てき

山田 あのとでは業界全体が信用されていなくて、風俗営業が協同組合なんてとんでもないという風潮が強かった。社会の風俗当たりが強く相手にされなかった。それをみんなのこの業界をいものにしたくはない。世間には後ろ指を刺されることをしやうはいけな。という熱い思いで押し返して、協同組合ということになったわけです。

九遊商全組合員の違法精神が健全な遊技産業を支えるのに不可欠

丸田 十三代の丸田理事長のころは、C



R機が市場を席巻してしまっていて、ぼちぼちの産業規模が三十兆円といわれていますが、その当時の組合活動の中心は六人合組です。

九田 私は平成五年から三期六年間を副理事長として組合活動に携わっていましたが、ちょうどそのころが今の中古流通を構築する準備段階でした。私運も能く出て、組合が東京に出かけ対応しました。その基

礎固めできたのが、業界の産業規模三十兆円といわれるようになった時期と合致しています。

三下 いろいろな経緯があつて今日の九遊商があるわけですが、現在の石山理事長は日通協、全商協の要務を兼務されています。在任の十年間を振り返つて、苦勞などは、



石山 美蘭方が取り組まれたことがあったことを安定させるために頑張つていました。既社団体として業界内での立場をちゃんと守つていきたいと思います。いまは中古流通という部分があります。それに加えて「カー」との良好な関係も樹立していきたい。いろいろな問題の中で、難し、固面にあるのが、という思いを交えていろいろあります。せっかく組合を立ち上げたからには、組合員がキチンとした既社であることで信頼を築き、ビジネスのなかで組合に加入しただけが何らかのメリットを生み出す。そういう組合にしていきたいと思えます。

三下 中古流通においては、各組合員の意識が大事ですからね。石山 この点、もういじりながらを締め直さない、先導者が作ってくれたものを失くさず、生かします。九遊商は幾多の遊技産業を支えるための一環を担うというのが基本的な理念であり、やりとることだと思います。我々の存在意義はどこにあるのかを考えるときに、やはり、行政当局との

信頼関係には語れません。そのためには我々の考え方の一本化が必要であり、そのために求心力を高めることがこれからの課題だと高めています。

山田 そうなると組合としての活動がより円滑に、力強いものになりますね。

三下 そうですね、奨励事業として社会的認知度を高めることは、一定の成果を積み上げていきたいと思います。しかし、これからは不況の度合いが強まる。組合のまとまりを阻害する原因が出てくるのではという危惧はあります。

石山 そうですね。自主的なキーマン、時に立法の場でもは、無力な面もありますが、内規を守らないからといって、権利に組合を縛られても仕方ありません。現在は、風習法に規定された香期を作成できる立場にあるわけですが、重大な問題点が表面化するに、権利を失ってしまう可能性もあります。そういう危機感を全ての組合員が持つて、責任ある行動をとるなければならぬ、と思っています。私運は、このこと、繰り返し、懇切丁寧には伝達していかなければならないと思えます。

### 理事長は、業界の情勢を的確に判断し、最善の役割を果たすのが使命

三下 九遊商が設立されて五十周年が経過しました。その間に、業界そのものも大きく変わってきましたが、歴代理事長の皆さんは、それぞれの時代の社会情勢を的確に読みとらえ、経験を生かして、ご苦労が多かったと思います。また、組合活動のなかで、その成果を正しく評価することもおありかと思

います。そのあたりのお話をお願いします。

三田 自分の時代の課題は、自分ではできません。ただ言えることは、そのときの社会情勢、組合員の意識、業界の動向などを考えながら、これがベストだという方向を模索してきたということです。私が今は八人合組の核に当たっては、私が設立の目的に合致する最善の役割を果たすこと、そのために自分なりに努力したい、という自負はあります。結果がどうだったかは自分で評価できないし、分かりません。

山田 有田さんは、いつみればワゴンな強敵が二つ、こうかと思つたことはなかなか、やごいけな時代でもありましたが、ワゴン大に結構です。先ほどの話にもありましたが、業界はセブ機の登場が一つの契機になって、大きく浮揚するきっかけになりました。九遊商でいえば、昭和六十二年に協同組合と法人化したことが大きな転機だったと思います。分かりやすい言い方をすれば、それまでは個人商店だったのが株式会社になったようなもので、組合員の意識が大きく高まったと思います。通常年認可された組織ですから、対外的にも世間の見目が変わったのではないのでしょうか。同時に、組合執行部の全権を以前にまで引き継いだものになりました。

三下 プリペイドカードが導入されたときは、両面組合として対応に奔走されたというのを聞きました。

三田 そう、プリペイドカードには振り回された思いがあります。導入の動き



があるということ、何とが販社としての販売権を獲得しよと考えました。ところが、全体的な動きがもうひとつ頼めない。その結果、いそがしは仕事を諦むというところが多く、最終的には販社は全く取れぬ事が多くないことになってしまいました。

丸田 私の理事長時代は、先ほども言いました中古流通、そして陸奥台所問題などが、ようやく目鼻がついたところが大に成果であり、それと組合を自社にいたしました。これは私が唯一誇れることで、それまでの深見じりから、いまの美野島の自社に組合事務所を移しました。時間が下がったということもありまして、いろいろなミーティングだと思えます。こういう思い出もありませんが、肉体的、精神的には消耗しましたね。

**九遊商の信頼を勝ち取るために、次世代につながる活動を目指す**

石山 先賢方が教育者でない時代に、さまざま



な困難を乗り越えて今日の土着を築かれたことに心から敬意を表します。これだけ有田さんが平成十八年十一月に、東洋初人の監製委員を委嘱されたことは、業界界人として誇らしく思っております。ここまで皆さんお話を聞かせていただき、私の立場は、一般の企業で言っても二日目、三日目くらいと認識しました。初代がごを起し、二代目それをよくやりました。三代目、私の代があると考えます。私が理事長をやつていくうえで、いちはば人留まり、組合員に対して機会等を守つていくということ、また、情報を分かりやすく伝え、組合員活動に理解を深めていただく。そして、同じ方向を目指すことが組合活動の根幹だと考えています。

石山 そうですね。十年もやつてますから、私も九州の理事長としてある程度の立場、信頼も持たれたのではないかと感じています。九遊商への信頼を受け継いで次代の人たちに活かししてほしい、そのことが九遊商

の初目標にいい形ではねかえつてくると思

山田 これから五十年後には、この業界は想像しれないことになるかも知れません。常に変動する業界にどう対応するか、心配しいところですが、その不安を組合員に九遊商に入ってもらったことと安心感を与え、関係業者には九遊商の組合加盟を呼び取つてもらった満足感ももたらえるようになることが、組合の発展的な存在意義ということになるのではないのでしょうか。

石山 おっしゃるとおりだと思います。五十周年の節目にのり先編連のご協力とご努力をお聞きすることができました。これは、組合の存在に立ち返る良い機会でも、現在の理事長として、組合の目的にも

**九遊商第7回定例理事会**

**東北遊商から組合員全員にリンゴ一箱のお礼**



九遊商ビル会議室で開催された九遊商第7回定例理事会

九遊商（石山敬達理事長）は10月18日、九遊商ビル会議室で平成23年度第7回定例理事会を開催した。石山理事長から11日に行われた全商協第6回定例理事会の結果が報告された。

九遊商関連では第3回機械村委員会（10月18日）の結果などが報告された。また、東日本大震災の被災支援のお礼に東北遊商から九遊商の組合員全員にリンゴ一箱が送られることになったと発表された。

- ありましたが組合員の相互扶助の精神を堅持しながら、組合員の自主的な経済活動を促進し、経済的地位の向上を図るために機力ではありますが全力を尽くして奮闘する覚悟です。今後とも指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。
- 石山 本日は、お忙しいなかを九遊商設立五十周年記念総会に出向いただき、ありがとうございました。
- |            |           |
|------------|-----------|
| 総会出席者(敬称略) |           |
| 有田義雄       | (二代目・五代目) |
| 山田規雄       | (八代目)     |
| 金子隆生       | (十一代目)    |
| 丸田安利       | (十三代目)    |
| 石山敬達       | (十四代目)    |
| 黒毛改利       | (九遊商事務局)  |
| 武下俊治       | (司会)      |